

授業科目名： 発展領域論 (Progress of Physical Therapy)	必修： 理4年	1単位30時間 コード：RPB319	担当教員名：堀本佳彦〔理学療法士〕(仁戸名研究室10)、稲垣武、坂崎純太郎〔理学療法士〕
	実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識, Ⅶ 生涯にわたる探究心と自己研鑽			
〔授業の到達目標及びテーマ〕 理学療法の領域が拡大しており、新しい理学療法学の考え方を学ぶ。 ① 急進的に発展が認められる領域に焦点をあて、先端の知識や治療技術を学ぶ ② 理学療法学分野の研究におけるデータ解析の実際について学ぶ。 ③ エビデンスに基づく理学療法の実践のために、システムティックレビューおよびガイドラインについて学ぶ。			
〔授業の概要〕 理学療法学分野をはじめとして、広くリハビリテーションで急進的に発展が認められる領域に焦点をあて、先端の知識や治療技術を学ぶとともに、理学療法学研究の発展を目的に、就学時から研究に必要な統計学を学習する。合わせて、臨床研究に応用する知識を高め、理学療法のエビデンスについて理解する。			
キーワード：データ解析、システムティックレビュー、がん、予防			
〔授業計画〕			
回数	テーマ	内容	担当
第1回(10/2Ⅲ)	エビデンスに基づく理学療法	エビデンスの基礎	堀本
第2回(10/2Ⅳ)	エビデンスに基づく理学療法	システムティックレビュー	堀本
第3回(10/9Ⅲ)	エビデンスに基づく理学療法	システムティックレビュー	堀本
第4回(10/9Ⅳ)	エビデンスに基づく理学療法	ガイドライン	堀本
第5回(10/16Ⅲ)	エビデンスに基づく理学療法	エビデンスの基礎	堀本
第6回(10/16Ⅳ)	理学療法研究におけるデータ解析	統計的検定の基礎	堀本
第7回(10/23Ⅲ)	理学療法研究におけるデータ解析	統計的検定(パラメトリック)	堀本
第8回(10/23Ⅳ)	理学療法研究におけるデータ解析	統計的検定(ノンパラメトリック)	堀本
第9回(10/30Ⅲ)	理学療法研究におけるデータ解析	統計的検定(相関・回帰分析)	堀本
第10回(10/30Ⅳ)	理学療法研究におけるデータ解析	統計的検定(分割表の検定)	堀本
第11回(11/6Ⅰ)	がんの理学療法	がんの理学療法のトピックス	稲垣
第12回(11/6Ⅱ)	がんの理学療法	がんの理学療法のトピックス	稲垣
第13回(11/13Ⅲ)	予防理学療法	予防理学療法のトピックス	坂崎
第14回(11/13Ⅳ)	予防理学療法	予防理学療法のトピックス	坂崎
第15回(11/Ⅲ)	まとめ	授業全体を通じたまとめ	堀本
履修条件	3学年後期までの授業および4学年の臨床実習がすべて終了している。		
予習・復習	シラバスに沿って授業を展開します。講義内容から事前学習をしておいてください。		
テキスト	特になし。各担当教員が作成した資料をもとに授業を展開する。		
参考書・参考資料等	指定しない。授業の中で適宜紹介する。		
学生に対する評価	課題レポート(100%)で評価します。欠席が授業の3分の1を超えた場合はレポートを受けとりません。		

授業 科目名	臨床体験実習 Clinical Exposure	履修年次: 理1年	単位数:1単位 45時間 コード:RPC200	担当教員名: 科目責任者 大谷 拓哉 (仁戸名 研究室 11) 堀本佳誉[理学療法士]、室井大 佑[理学療法士]、江戸優裕[理学 療法士]、稲垣武[理学療法士]、 坂崎純太郎[理学療法士]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 I 倫理観とプロフェッショナルリズム, II コミュニケーション能力, VI 多職種との協働				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では、実際の理学療法場面の見学や理学療法対象者とのコミュニケーションを通して医療人としての「資質」を身につけることを目標に臨地・臨床実習を行います。				
① 各施設の概要や特徴を理解します。 ② 施設内での理学療法の位置づけを理解します。 ③ 理学療法の対象と理学療法士の関わりを理解します。				
〔授業の概要〕 理学療法士となるべき資質と動機付けを、維持向上させるために、理学療法士が働く臨床実践現場を見学する。本科目は、臨床実践現場における実習形式により、理学療法の対象領域、理学療法士のかかわり方とその手法等に接することで、理学療法概論等と関連付けて学習意欲の向上と理学療法士となる課題を自覚する Early Exposure の一環として学びます (理学療法士の実務経験に基づき、各教員が担当する。)				
キーワード: 臨床実習、早期体験学習、プレゼンテーション				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	10/3	オリエンテーション	実習の目的、内容、実習に向けての準備についての説明	全教員
第2回	10/31	事前学習	実習施設の概要、行われている理学療法についての事前学習	
第3回	12/19	実習準備1	感染対策・自己紹介用紙について	
第4回	1/23	実習準備2	実習の諸注意、実習での提出物、課題についての説明	
第5回	2/20	実習準備3	実習の最終確認	
第6回	3/16~ 3/19	臨床実習	病院、クリニック、介護老人保健施設等における実習。見学を中心として、理学療法士が働く臨床実践現場を体験する。	
第7回	3/23 時間未定	学内総括セミナー	実習施設における体験内容の発表および総括 (仁戸名キャンパスで行う)	
履修条件	特になし			
予習・復習	予習: 各講義で扱うテーマについて、「臨床実習の手引き」や文献等で予習してください。 復習: 各講義の資料やノートを見直すことで知識の定着を図ってください。			
テキスト	本専攻「臨床実習の手引き」を活用します。			
参考書・参考資料等	授業の中で適宜紹介します。			
学生に対する評価	臨床総合評価 (50%)、学習態度、課題レポート・セミナーでの発表等 (50%) を勘案し、総合的に評価します。			

授業 科目名	評価実習 Clinical Assessment Practice	履修年次: 必修:理3年	単位数:4単位 180時間	担当教員名:大谷拓哉[理学療法士] (仁戸名研究室11) 堀本佳誉[理学療法士]、室井大佑[理学療法士]、江戸優裕[理学療法士]、稲垣武[理学療法士]、坂崎純太郎[理学療法士]
		実務経験のある教員による授業 科目	コード:RPC400	
〔DP〕Ⅳ 健康づくりの実践,Ⅲ 実践に必要な知識,Ⅱ コミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 臨床の現場で、実践を通して学内で学んだ評価方法の確認をします。到達目標は以下のものとします。 ① 理学療法士として必要なコミュニケーション能力を身につけること。 ② ROM、MMT等の基本的評価手技を取得すること。 ③ 評価から得られた知見をもとに問題点、治療目標を設定できること。				
〔授業の概要〕 さまざまな疾患、疾病、外傷により障害（運動障害、感覚障害、内部障害等）のある対象者に対して、理学療法の一連の流れのうち、評価から治療計画立案までの過程を経験することで、知識と技術を修得する。本科目は、学外施設における理学療法士実習指導者の下で行う実習形式により、対象者に対して評価等の理学療法の流れを実施することで、理学療法評価方法の技術と知識の統合を理解する。（理学療法士の実務経験に基づき、各教員が担当する。） ----- キーワード: 臨床実習、理学療法評価、問題点抽出、ゴール設定				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
	未定	オリエンテーション①	課題の提示	全教員
	未定	オリエンテーション②	臨床実習の目的・内容、学生の心得、諸注意、課題の説明	
	R8.1.13 ～ R7.2.13	評価実習	病院、クリニック等の臨床現場における実習。 期間:4週間 各実習施設の指導者の指導のもと、問診、各種検査・測定を行う。 評価から得られた知見から問題点、治療目標を設定する（可能であれば治療プラン立案まで行う）。 実施した内容について適宜記録、報告する。	
	2/16	総括セミナー/報告会	課題の提出、実習の振り返り、実習報告	
履修条件	シラバスの先修条件を参照してください			
予習・復習	予習:これまでに学んだ評価、検査・測定について、教科書や資料を見直し、また実技については自主練習に励んでください。 復習:OSCEや臨床実習で不足していた知識、技術を復習し、次の実習に備えてください。			
テキスト	PT・OTのための実用・実践コミュニケーション術 金原出版 2024年			
参考書・参考資料等	本専攻「臨床実習の手引き」を活用します。			
学生に対する評価	臨床総合評価(60%)、学習態度、課題レポート・セミナーでの発表等(40%)を勘案し、総合的に評価します。なお、実習前の課題レポートの提出がなされていない場合は本実習に出ることができないため注意してください。			

授業科目名	総合実習 I Clinical Education I	履修年次: 必修 4 年	単位数: 7 単位 315 時間	担当教員名: 大谷拓哉[理学療法士] (仁戸名研究室11) 堀本佳誉[理学療法士]、室井大佑[理学療法士]、 江戸優裕[理学療法士]、稲垣武[理学療法士]、 坂崎純太郎[理学療法士]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅳ 健康づくりの実践, Ⅲ 実践に必要な知識, Ⅴ 健康づくりの環境の整備・改善				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 理学療法の評価から治療計画の立案、治療計画の実施、再評価による一連の過程を経験することで、知識と技術を修得します。到達目標は以下のものとします。 ① 理学療法の評価、問題点抽出、プログラム立案を確実にできること。 ② 治療技術を学び、自分で行えるようになること。				
〔授業の概要〕 理学療法の評価から治療計画の立案、治療計画の実施、再評価による理学療法の検討の一連の流れを経験することで、知識と技術を修得する。本科目は、学外施設における理学療法士実習指導者の下で行う実習で、対象者に対して評価等の理学療法の流れを理解する。運動器リハビリテーションや脳血管疾患リハビリテーションの認可施設を中心に、呼吸循環器・代謝系障害などの対象に対する 7 週間の総合的な臨床実習を通して理学療法を理解する。(理学療法士の実務経験に基づき、各教員が担当する。)				
キーワード: 臨床実習、理学療法評価、問題点抽出、ゴール設定、治療技術の修得				
〔授業計画〕				
回数	テーマ	内 容		担当
事前評価	事前評価	理学療法検査・測定に関する知識・技術のチェック		全教員
4/14~6/6	総合実習	病院、クリニックなどの医療現場における実習です。期間は7週間とします。 各実習施設の指導者の指導のもとで、問診、各種検査・測定を行います。 理学療法の評価から得られた知見から問題点、治療目標を設定し、治療計画を立案・実施します。 実施した内容について適宜、記録や報告を実習指導者に行います。 ※実習の施設によって、実習の終了時に発表会があります。		
6/9	総括セミナー/報告会	課題の提出、実習の振り返り、実習報告		
履修条件	3年次までの必修科目の単位すべてを修得済みであること。			
予習・復習	予習: これまでの授業で学んだ知識、技術を復習しておいてください。 復習: 実習中に不足していた知識、技術を復習し、次の実習に備えてください。			
テキスト	本専攻「臨床実習の手引き」を活用します。			
参考書・参考資料等	特になし			
学生に対する評価	臨床総合評価 (60%)、学習態度、事前評価、提出課題・報告会での発表等 (40%) を勘案し、総合的に評価します。			

授業 科目名	総合実習Ⅱ Clinical EducationⅡ	履修年次: 必修 理 4 年	単位数: 7 単位 315 時間 コード: RPC402	担当教員名: 大谷拓哉[理学療法士] (仁戸名研究室2) 堀本佳誉[理学療法士]、室井大佑[理学療法士]、 江戸優裕[理学療法士]、稲垣武[理学療法士]、 坂崎純太郎[理学療法士]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅳ 健康づくりの実践, Ⅲ 実践に必要な知識, Ⅴ 健康づくりの環境の整備・改善				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 理学療法の評価から治療計画の立案、治療計画の実施、再評価による一連の過程を経験することで、知識と技術を修得します。到達目標は以下のものとします。 ① 理学療法の評価、問題点抽出、プログラム立案を確実にできること。 ② 治療技術を学び、自分で行えるようになること。 ③ 再評価を実施し、自らが立てた計画の変更ができること。				
〔授業の概要〕 理学療法の評価から治療計画の立案、治療計画の実施、再評価による理学療法の検討の一連の流れを経験することで、知識と技術を修得する。本科目は、総合実習Ⅰと同様に学外施設における理学療法士実習指導者の下で行う実習で、対象者に対して評価等の理学療法の流れを実施することで、技術と知識の統合と理解を図る。脳血管疾患リハビリテーションや運動器リハビリテーションの認可施設を中心に、呼吸循環器・代謝系障害など様々な対象疾患に対する7週間の総合的な臨地実習を通して理学療法を理解する。(理学療法士の実務経験に基づき、各教員が担当する。)				
キーワード: 臨床実習、理学療法評価、問題点抽出、ゴール設定、治療技術の修得				
〔授業計画〕				
回数	テーマ	内 容		担当
6/16~8/8	総合実習	病院、クリニックなどの医療現場における実習です。期間は7週間です。各実習施設の指導者の指導のもとで、問診、各種検査・測定を行います。理学療法の評価から得られた知見から問題点、治療目標を設定し、治療計画を立案・実施します。実施した内容について適宜、記録や報告を実習指導者に行います。再評価や最終評価ができ、治療計画の変更もできるようにします。 ※実習の施設によって、実習の終了時に発表会があります。		全教員
8/12	総括セミナー/事後評価	課題の提出、実習の振り返り、実習で学んだ検査測定・治療に関する知識・技術のチェック		
履修条件	3年次までの必修科目の単位すべてを修得済みであること。			
予習・復習	予習: これまでの授業で学んだ知識、技術を復習しておいてください。 復習: 実習中に不足していた知識、技術を復習し、次の実習に備えてください。			
テキスト	本専攻「臨床実習の手引き」を活用します。			
参考書・参考資料等	特になし			
学生に対する評価	臨床総合評価 (60%)、学習態度、提出課題・事後評価等 (40%) を勘案し、総合的に評価します。			

授業科目名	地域理学療法学実習 Clinical Education for Community Based Physical Therapy	履修年次: 必修 4年	単位数: 1 単位 45 時間 コード: RPC403	担当教員名: 大谷拓哉[理学療法士] (仁戸名研究室2) 堀本佳誉[理学療法士]、室井大佑[理学療法士]、 江戸優裕[理学療法士]、稲垣武[理学療法士]、 坂崎純太郎[理学療法士]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 I 倫理観とプロフェッショナリズム, II コミュニケーション能力, VI 多職種との協働				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では、これまでの臨床実習で学んだ専門的知識や経験を基に、高齢者あるいは利用者に対する理学療法の実践と他職種との協働を見学・体験することを目的とします。到達目標としては、「訪問リハビリテーションあるいは通所リハビリテーションにおける理学療法士の役割を理解すること」とします。				
〔授業の概要〕 学外の実習施設で、訪問リハビリテーションや通所リハビリテーションの現場を体験し地域理学療法の理解を促進する。本科目は、原則として学外施設での実習形式により、訪問リハビリテーションへの同行や通所施設での実地演習を行う。また、それぞれの見学、体験した内容についてレポートにまとめ、報告会でのプレゼンテーションとディスカッションの機会も設ける。(理学療法士の実務経験に基づき、各教員が担当する。)				
キーワード: 臨床実習、地域理学療法学、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション				
〔授業計画〕				
回数	テーマ	内容		担当
8/12	オリエンテーション	実習の目的、内容、諸注意、課題の説明		全教員
9/1~9/5	臨床実習	訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション部門における実習。見学を中心として、地域理学療法の実践について学習する。		
9/8	総括セミナー/報告会	課題の提出、実習の振り返り、実習で学んだ内容の報告		
履修条件	3年次までの必修科目の単位すべてを修得済みであること。			
予習・復習	予習: これまでの講義で学んだ地域理学療法に関する知識・技術を講義資料や文献等で再確認してください。 復習: 実習中に不足していた知識、技術を復習してください。			
テキスト	本専攻「臨床実習の手引き」を活用します。			
参考書・参考資料等	特になし			
学生に対する評価	臨床総合評価 (50%)、学習態度、提出課題・報告会での発表等 (50%) を勘案し、総合的に評価します。			

授業科目名： 卒業研究 (Graduation works)		履修年次： 必修：理4年	単位数：2 通年 コード：RPD400	担当教員名：堀本佳誉 [理学療法士] (仁戸名研究室10)、大谷拓哉、室井大佑、江戸優裕、稲垣武 [理学療法士]
〔DP〕 II コミュニケーション能力, VII 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では、理学療法研究方法論で習得した①文献検索、②研究計画、③実験・調査の実施、④結果の解析、⑤論文作成、⑥プレゼンテーションについての基礎的な知識・技術を体験することを目標とします。これは卒業後の臨床研究が行える能力を身につける事として捉えるものと考えています。				
〔授業の概要〕 理学療法研究方法論で修得された知識内容に基づいて、学生個々が設定した研究課題の解決と結果の発表等の一連のプロセスを体験する。本科目は、さまざまな研究課題に基づき、学生の研究課題に即した手法を選択し、課題解決とまとめを、教員に対する人数を少数として、十分な指導の下に学ぶ。				
キーワード：卒業研究、実験デザイン、理学療法研究方法論				
〔授業計画〕				
回数	テーマ	内 容		担当
第1回 (4/1)	ガイダンス	研究計画の発表 (発表4分、質疑3分)。		堀本佳誉、大谷拓哉、室井大佑、江戸優裕、稲垣武
第2回 (〇)	実験・調査の実施	各担当教員の指導の下で研究を進めます。		
第3回 (〇)				
第4回 (〇)				
第5回 (〇)				
第6回 (〇)				
第7回 (11/28)	卒業研究発表会	口述発表 (発表7分、質疑3分)		
第8回 (12/5)	卒業論文提出	卒業報告書掲載します (執筆の様式は後日連絡します)		
履修条件	担当教員のゼミナールに積極的に参加し、真摯に課題に取り組んでください。勿論、英文のReviewは常に行ってください。			
予習・復習	シラバスに沿ってスケジュールが進みます。特に、研究計画発表は開催日程に注意してください。研究発表や論文提出は余裕をもって行うこと。			
テキスト	自分の研究に応じたReferences (英文) を読んでReviewすること。			
参考書・参考資料等	自分の研究に応じた沢山のReferences (英文) を読み込むこと。			
学生に対する評価	研究課題に取り組む日ごろから、各教員のゼミナールに必ず出席すること (50%)、卒業研究発表 (20%) と論文内容 (30%) から評価します。ゼミの参加 (出席日数) や発表会などの参加が評価の基準となります。			